



広島国際学院  
創立85年



母校である本大学の学園祭「高城祭」にて凱旋ライブを敢行、力強いパフォーマンスを披露したバンド「電大」のメンバー（左から手島いさむさん、川西幸一さん、EBIさん）

卒業生、ロンドン五輪でコーチの大役

特集 大学の教育力	2・3	
ものづくりに新しい風を	工学部	4
心を伝えるデザインを追求	情報デザイン学部	5
フレッシュな提言、地域の力に	現代社会学部	6
経験と技術開発は車の両輪	短期大学部	7
高校から発信	8・9	
第45回 高城祭		
「ゴールドラッシュ!!!」を終えて	10	
高校・今井君、プロ野球DeNA入団	11	
短大卒業生、ダイハツ技術大会で3位	11	
大学同窓会総会	11	
卒業生アーチェリーコーチで五輪出場	12	
アーチェリー全日本大会で4位	12	
今後の主な行事予定	12	

広報

第90号

平成25年1月1日発行

URL <http://www.hkg.ac.jp/>  
※大学ブログも公開中。あわせてご覧下さい。

# 大学の教育力

## 2012年大学ランキングで本大学の教育力が高く評価された！



『週刊ダイヤモンド』9月29日特大号  
表紙(写真提供：週刊ダイヤモンド)

ビジネス誌の『週刊ダイヤモンド』9月29日特大号で、本大学は全国560大学中185位にランクされました。広島県の私立大学の中ではトップクラスでした。「教育は愛なり」の建学精神に基づいて、学長を中心にきめ細かい丁寧な教育を実践している本大学にとっては大変嬉しいことです。

近年、週刊誌がいろいろな視点から大学ランキングを発表しています。従来、大学ランキングには入試の偏差値が主に使われていましたが、入学試験の方式の多様化や試験科目の減少により、今や偏差値だけで大学の良し悪しを測ることが難しくなっています。そのため偏差値に頼らない大学選びとして、いろいろな視点から大学を評価する動きが出てくるようになりました。

『週刊ダイヤモンド』誌は以前から特集記事として大学ランキングを発表しています。2011年の特集「就職に強い大学ランキング」に続き、2012年は特集「大学全比較」を発表。

この中で「全国560大学総合ランキング」を掲載しました。これは、全国731大学にアンケート調査を実施し、得られた回答に基づいて作成されたものです。必要なデータが全て揃う560校について、表1に示す「教育力」「就職力」「学生獲得力」の3項目によって大学の総合的な強さを判定しています。その結果、本大学は560校中の185位にランクされました。「教育力」に限定すれば、本大学は広島県の私立大学の中ではトップクラスということになります。「就職力」は、学生の就職率(特に公務員)が高くて、上場企業にOBの役員が多い大学が上位になります。さらに、本大学の留学生の多くが本国に帰国して就職活動するので、本大学の就職力は高く評価されません。「学生獲得力」は、受験倍率が高くて、志願者も増えていることと関連があり、本大学は意外に高く評価されています。

以上のように本大学は教育力の高い大学としてランクされましたが、本当に優れているかどうかを次に調べてみましょう。

### きめ細かい丁寧な教育とは！

今回取り上げられた「教育力」の中身の1つは、教員1人あたりの学生数です。人数の少ない方が、授業も学生生活指導もきめ細かく学生に対応することが可能になります。もう1つは教育研究費充実率です。これは教育研究費÷学生納付金×100で求め、数値の高い方が、学生の支払う授業料がより多く教育に充てられるため、良い教育が可能になります。3つ目は教育研究力です。これは教員1人あたりの研究費であり、額の多い方が良い研究ができるので、その結果を教育にも反映させることが可能になります。本大学の教育力が高く評価されているのは前の2つの項目によるものと思います。

### a. 教員1人あたりの学生数！

本大学の専任教員1人あたりの学生数は、現在13.1人です。これは私立大学としてはかなり少ない値であり、医療看護系大学を除くと国公立大学に匹敵する値となっています。広島県の私立大学でも指折りの順位で、学生と教員の距離が極めて近く面倒見の良い大学ということが出来ます。

### b. 習熟度別クラス編成、少人数教育！

本大学は、英語は8クラス、数学は4クラス、物理は5クラス、化学は3クラスなどに習熟度別クラス編成して授業をしています。また、昨年度は大学全体で約460授業科目がありましたが、1クラスで80名を超える授業は6講義、40～79名が56講義、30～39名が60講義、20～29名が118講義で、約460の授業の約半分が19人以下のクラスになっています。少人数制の教育は学修効果を上げるのに欠かすことはできないものです。



少人数教育の様相

### c. 奨学制度の充実！

本大学の奨学金制度はその種類も多く、また給付実績も群を抜いており、学生の学習支援には大きな効果をもたらしています。さらに、学習環境の整備にも取り組んでおり、本大学の教育研究費充実率は高くなっています。

### d. その他

教育力が高いことと関係の深い本大学の取組のいくつかを次に挙げています。

- ㊦. 継続して行うFD活動による授業改善努力
- ㊧. ホームルームやチューター制度、オフィスアワーなどの充実
- ㊨. 入学式直前の2日間行う「自己の探求I」の授業
- ㊩. 1年生を対象にしたプレゼミナール、導入教育の授業  
これを機にさらに教育力の優れている大学として高く評価されるよう教職員が力を合わせて頑張ります。



「自己の探求I」の講義

表1. 比較に用いた3つの項目

項目	内容	説明
教育力	① 教員一人あたりの学生数	人数が少ない方がきめ細かな学生への対応
	② 教育研究費充実率	数値が高い方が学生が払う授業料が教育に充てられる
	③ 教育研究力	金額が高い方が教員一人あたりの研究費が高い
就職力	① 正味の就職率	数値が高い方が正規雇用で就職する卒業者数の割合が多い
	② 公務員就職率	数値が高い方が人気就職先である公務員に就職する割合が多い
	③ 上場企業役員数	多い方が次世代のリーダーを育成している可能性が高い(出世度が高い)
学生獲得力	① 志願倍率	数値が高い方が人気が高い
	② 志願者数増減率	数値が高い方が5年前より志願する学生が多い

# ものづくりに新しい風を

## 工学部

### 第45回 高城祭に出展

#### —ものづくりとバイオ、工学の粋を集めた展示—

10月27～28日に高城祭(広島国際学院大学祭)が行われ、工学部からも出展しました。ものづくりセンターではとんぼ玉の製作体験や展示・販売、ハイテク・リサーチ・センター前広場では電気自動車や電動バイクの展示と試乗会、さらに5号館前広場ではバイオ特製カレーを販売しました。

いずれも非常に盛況で、特にとんぼ玉は製作体験に順番待ちの列ができるほどでした。電気自動車は非常に小型で魅力的な形が受けて、



かっこいい電気自動車に子どもたちもご満悦

女性や子どもにも人気でした。現在は太陽光発電などの再生可能エネルギーを用いて充電しているという説明に、来場者からも将来はこのような使用形態が主流になるのではないかと感想をいただきました。電動バイクは一般の人にも運転していただく試乗会も行いました。音もなく動くことが不思議な感じで、皆さん一様にびっくりしていました。バイオ特製カレーも、講義で学んだバイオ技術と食品の知識を活かした味で「とても美味しい」と大好評でした。

来年度から工学部に生産工学科と食農バイオ・リサイクル学科が誕生します。近未来の生活がどのようなようになるのかを考えることのできる展示でした。



大人気だったとんぼ玉製作体験

### 中国・四国工業教育協会大学教育部会研究会

中国・四国工業教育協会大学教育部会による研究会が、12月7日に本大学の袋町キャンパスで開催されました。

中国・四国工業教育協会とは、産業界と工学に関係のある大学、短期大学及び高等専門学校との連携を密にして、中国・四国地区における工業教育の振興をはかり、我が国の産業の発展に寄与することを目的に、1982年6月に設立された歴史ある協会です。工業教育機関と産業界との連携と、工業教育に関する研究のための集会を毎年開催しています。

本年度の研究集会では、一般社団法人教育ネットワーク中国 代表理事の市川太一氏、(株)アールテック・リジョウ 代表取締役常務 石本邦雄氏、大西電機工業(株) 専務取締役 大西憲一郎氏、(株)日本製鋼所広島製作所 副所長兼総務部長 三戸慎吾氏の4名により、工業教育に関する基調講演と『企業が求める人材像』と題したパネル討論会を行いました。企業側としては、人との対話など基本的な人間力はもちろん、自分で考える「提案力」とグローバル化に対応できる「チャレンジ精神」、そして、電気、機械、情報の中で、どれか得意分野を持つ人材を求めており、ものづくり道場や資格支援による人材育成方法など、企業関係者との活発な議論と意見交換が行われました。本大学においても工業教育と学生への職業指導に役立つ研究会となりました。



パネル討論会の模様

# 情報デザイン学部 ▶ 心を伝えるデザインを追求

## インド料理店ロゴデザイン

11月1日府中町にオープンした「インドダイニング ドルガ」のロゴマークに、本学部4年生のファム ティ レ テウイさん(ベトナム出身)の案が採用されました。

ロゴマークのデザインについて7月に依頼があり、4年生の4人の学生がデザインを担当しました。8月25日には関係者の前で学生4名がそれぞれプレゼンテーションを行いました。その中でファムさんのデザインが採用され、周囲に花をあしらった点や背景を濃茶でまとめた点などが高く評価されました。その後決定したファムさんの案をベースにロゴがデザインされています。

インドダイニング ドルガ

(場所: 安芸郡府中町宮の町2丁目5-28 電話: 082-569-6080)



ファムさんデザインを元に完成したインド料理店の看板



高城祭の「恋し浜復興支援プロジェクト」ブース

岩手県綾里湾にある恋し浜(小石浜)の復興を支援するプロジェクト「恋し浜復興支援大作戦!」を実施しています。このプロジェクトは昨年度卒業生の小林佐和子さんが企画し、牛尾優香さん(4年 桜が丘高校出身)、久保知美さん(4年 県立広島商業高校出身)、<sup>おどりば</sup>躍場貴也君(3年 県立広島工業高校出身)を中心に活動しています。

10月27~28日の高城祭では、プロジェクトのブースを出展。現地の状況を解説するとともに、ホタテの貝殻に応援メッセージを書くコーナーを設けました。恋し浜はホタテ養殖が盛んで、この貝殻も恋し浜から送っていただいたものです。三陸鉄道の方がきれいに汚れを落としてくださいました。また、専門知識を活かして学生がデザインした恋し浜応援ステッカーとポストカードを販売しました。この収益は学生のボランティア活動や海底瓦礫除去に役立てられます。



恋し浜駅に応援メッセージ入りホタテ殻を贈呈(写真提供:三陸ボランティアダイバース)

11月中旬には3人が実際に現地へ赴き、海底瓦礫撤去やホタテ養殖作業の手伝いなどのボランティア活動を行いました。高城祭で書いていただいた応援メッセージを三陸鉄道の恋し浜駅に届け、漁師の方にも大変喜んでいただきました。また、これまでの活動の報告会を12月22日に袋町キャンパスで実施しました。このプロジェクトは今後も継続して行います。

## 恋し浜復興支援大作戦!



海中瓦礫撤去の様子(写真提供:三陸ボランティアダイバース)

## HKGキャラクタープロジェクト with MAT

HKGキャラクタープロジェクトは、キャラクターイラストの作成と発信によって広島を元気にしようとする活動です。三次アニメーションタウン(MAT:広島県三次市の商店街の方々や三次市地域おこし協力隊受け入れ連合会の方々による町おこし団体)とのコラボ企画として、学生イラストによる等身大パネル2枚を納品しました。

赤いネクタイのキャラクターの名前は「願万寺 芳乃(がんまんじ よしの)」、紫のネクタイの方は「しらぎり ちどり」です。いずれも三次に関係するところから名付けられました。「芳乃」は高川雄平君(4年 広島県瀬戸内高校出身)、「ちどり」は藤井竜明君(3年 市立広島工業高校出身)がイラストを担当しました。

パネルは9月15~16日に三次市卑弥呼蔵で開催された「第六回三次町北の蔵プロジェクト」で正式にお披露目された後、「芳乃」はしばらく卑弥呼蔵、「ちどり」は三次市の和田コミュニティセンターで勤務中(?)とのこと。三次市のイベント等への出張も予定されているようで、今後の活躍にも期待です。



学生制作によるキャラクター

# フレッシュな提言、地域の力に

## プレゼミ「農山村の今を体験する～庄原市西城町～」



林業体験

11月10、11日の両日、庄原市西城町の5地区で1年生の野外体験活動を実施しました。今回のプレゼミの目的は、西城町自治振興区連絡協議会のご協力のもと、学生自身が農山村における様々な活動を実際に行い、地元の人々に今後の地元発展のための提言を行うというものです。

10日は比婆山登山から始まりました。当日はあいにくの曇り空でしたが、ガイドさんご先導のもと、全員元気いっぱい完歩し、頂上からの見晴らしを楽しみました。宿舎に戻った後は、地元の方々による地元の伝説を伝える紙芝居を鑑賞しました。皆熱心に見入っていたのが印象的でした。夕食はバーベキューで盛り上がりました。

翌日は朝8時に出発し、西城町の5地区に分かれて体験学習を行いました。

各地区の主な体験内容は以下の通りです。

衣木常会 — 林業体験	八銚落合自治会 — シイタケの収穫
高尾自治会 — リンゴの収穫	グリーンピア大佐村 — 水車と米の日本文化
大屋自治会 — シイタケ栽培	

林業体験では安全ロープを付けて木に登り、実際に枝打ちし、チェーンソーを使っての伐採も行いました。リンゴ狩りでは、生まれて初めてリンゴの木から直接リンゴをもぎ取り、自分で食べるという貴重な体験をすることができました。又シイタケ栽培では、原木に十数か所ドリルで穴を開け、その穴に植菌をする作業を行いました。帰る時にはお土産として自分が植菌した原木をいただき、大切に育てることを誓いました。地区によってはお昼も地元の方々と一緒にごはんを炊き、おかずの作り方を教えてもらいながら食事の準備をしました。わざわざ事前にイノシシの肉を準備していただき、バーベキューを味わった地区もありました。今回の体験は、地元の方々の多大なご支援とご協力により実施することができました。



リンゴ狩り

その後、大学において学長参加のもと、地区別の発表会を行いました。発表は写真をスライドショーで流しながら活動の様子を説明する形で行われました。この発表会によって、他の地区でどのような活動が行われたかを学生全員が共有することができました。今回の活動を通して、学内の授業では見ることのできない学生の主体的な動きや新鮮な感覚に基づく発言に目を奪われることも多々ありました。



シイタケの植菌作業

体験学習のまとめとして、学生それぞれが各地区に対し活動を通しての感想や今後の農山村活性化への提言をレポートの形で作成し、地元へ提出しました。提言の中には、学生ならではの発想に基づくユニークなアイデアも散見されました。今後もこのような体験学習は、学生の主体的活動を促す面からも高い成果が得られるものと思われます。

## 森学術奨励賞を受賞

この度、2011年後期の「外国人に広島の魅力を紹介する観光コースの設定」および2012年前期の「漂着ゴミ調査」プレゼミナール授業に対し栄えある森学術奨励賞を受賞しました。体験型授業の重要性が大いに評価された結果であると受け止めています。今後も様々な形で学生の主体性を重視した体験型授業の充実を図っていきます。



森学術奨励賞を代表して受賞した現代社会学部の松本俊雄教授(前列右から2人目)

## トヨタ九州・宮田工場を見学 —平成24年度研修旅行—

学生生活指導委員会 佐々木 博 和

8月28～29日、1泊2日の日程で北九州方面への研修旅行を行いました。  
1日目は、壇之浦パーキングで関門海峡を眺めながら昼食をとり、トヨタ自動車九州(株)の宮田工場を訪問しました。1991年創立の比較的新しい工場で、主にレクサスとトヨタのハイブリッド車を生産しています。各生産ラインには最新鋭のロボットが導入され、心配りのできる作業環境で、高品質な車づくり、また自然にやさしいハイブリッド車の生産工場として、2001年にゼロエミッションを達成した環境への取り組みなどを学びました。

見学後はマリンワールド海の中道で、アシカとイルカが楽しく競演するショーやパノラマ大水槽の中のサメの大群などを鑑賞しました。

2日目は大宰府天満宮に参詣。学問の神様に学業成就、2年生は3月の2級自動車整備士試験の合格を祈願していました。お昼前にこの旅一番のお楽しみ、スペースワールドに到着。暑い夏にはちょうどいいヴィーナスGP、タイタンVなどの絶叫マシンを楽しみ、2日間の旅程を終了して帰路に着きました。

台風の接近で心配された天気も、バスで移動中に雨が降り、降りれば雨が止むというタイミングの良さで傘の出番はありませんでした。

学生の皆さんはこの2日間で互いに交流を深め、学生時代の楽しい思い出の一つとなったことと思います。



トヨタ九州工場見学記念写真

## 広島日野自動車に学ぶ

—平成24年度整備工場見学—



エンジンのオーバーホール見学の模様

9月14日に広島日野自動車(株)の見学を行いました。JR呉線の矢野駅から歩くこと約20分。まだ残暑厳しい中、1年生のほとんどが駅から徒歩で参加しました。

見学は1組、2組、3組、と4組、5組、6組の2班に分かれ、講義形式と整備工場の見学を約40分間の入れ替えで体験しました。

集合場所にはかつてパリダカールラリー 2011に出走し、優勝に輝いた日野レンジャーが展示され、点呼を取る間に運転席を見学する学生もいました。

整備工場では、大型トラックの車検整備を見学できました。

講義では、ビデオ視聴と会社の概要説明がありました。山口ひかりさん(平成21年度卒)の整備作業の様子がビデオに映し出されていました。

また、今回の見学受入の窓口である改善支援室の山本啓二室長からは、学生に整備士としての心構えと採用試験に臨むノウハウをご教授いただきました。

最後に日野レンジャーの前で集合写真を撮影し、見学は終了となりました。

## 先輩からのアドバイス —就職対応ゼミで卒業生が講演—

10月15日と22日に1年生対象の就職対応ゼミを開講し、男女2人の卒業生が各自の経験を交え講演しました。

大田健二さんは平成14年3月に卒業し、広島トヨペット(株)に勤務しています。入社後にトヨタ検定1級、国家1級整備士を取得。トヨタ技術大会で優勝するなど数多くの業績を残しています。現在は採用・教育グループの主任として、整備士の採用を担当しています。「在学中は知識を身につけ、嫌いな科目ほど学んで社会に通用する人物になってほしい」と大田さん。「会社ではお客様に対応できるコミュニケーション能力が求められる。わからないことはまず自分で調べて考えることが評価につながる」と後輩に助言しました。

また平成19年に卒業した溝尾明日香さんは、ダイハツ広島販売(株)のサービススタッフとして勤務する2児の母です。会社が仕事の配置や作業時間などに配慮してくれることに感謝していると語りました。女性の整備士として、同性のお客様が安心して相談できることに誇りを感じるといいます。ただ「整備士の仕事に男女の区別はなく、覚えることや技術力をつけることも同じ」ときっぱり。家事や育児を切り盛りしつつ整備士として活躍するパワフルな先輩に、女子学生4名を含む学生たちもすっかり心服して聴き入っていました。



溝尾さんによる講演

## 普通科が平成25年度から変わります

本高校は平成25年度からの学習指導要綱の改定に合わせ、普通科の改革に取り組んできました。普通科は「特進コース」「進学コースⅠ型」「進学コースⅡ型」の3つのコースに分かれて募集を行います。1年次より生徒達の進路・目標・適性に合わせたカリキュラムによって進路実現を目指していくことができます。また、県下に類のないたくさんの部活動や体育祭・文化祭に代表される行事の数々によって、感動に満ちあふれた学校生活を送ることができます。

コース	進路目標
特進コース	難関国公立・難関私大
進学コースⅠ型	国公立・中堅私大
進学コースⅡ型	私大・短大・専門学校

### 第51回文化祭。。。新しい風を

11月18日、第51回広島国際学院高等学校文化祭が盛大に開催されました。今年度のテーマは「国際 Do My Best ～New Generation～」。最善を尽くし、新しい時代を切り開こうという思いが込められた文化祭となりました。

各クラス・クラブが団結して取り組んだ展示や模擬店。中校庭は例年通り賑わっていましたが、異なる点もいくつかありました。2学年の展示もその一つです。例年、学年のテーマに沿った内容を各クラスで表現しますが、今年は全てのクラスが「郷土愛」をモザイクアートにしました。4m×5mのモザイクが中庭に出現し、訪れた人を魅了しました。固定概念にとらわれず新しいことにチャレンジしようとする企画に2学年全体が取り組みました。

体育館では特設ステージを設置し、軽音楽部の迫力ある演奏を間近に体感できるよう工夫しました。生徒有志によるダンス発表は、放送技術研究部の協力も得ながら「ディズニーの世界」を余すことなく表現した素晴らしい内容となり、会場内ではあちこちで歓声が起こりました。またハングルスピーチコンテストでは、韓国教育院長のチュ・ギョホン先生をはじめ3名の先生方に審査をしていただきました。3年目を迎え、発音や発表内容にも練習の成果を感じることができました。本高校の文化祭は毎年進化しています。「やりきること」「新しいことにチャレンジしていく姿勢」は、今後も後輩たちに引き継がれていくことでしょう。ぜひ来年も文化祭に足を運んでいただきたいと思います。



ディズニーの世界をダンスで表現

### 「おくりびと」、生命を語る —震災支援活動の納棺師による講演、性教育HRで—

高校では毎年、学年ごとに性教育についてHRを実施しています。3年生は納棺師の笹原留似子先生を講師に迎え、「生命(いのち)」をテーマに講演会を行いました。

忘れてはならない2011年3月11日の東日本大震災。笹原先生は納棺師として現地に赴き、ボランティアで多くの方を納棺されました。亡くなった方と家族がきちんとお別れできるよう、体の損傷や表情などを復元して納棺することを大切にし、自らを「復元納棺師」と表現されています。

今回、笹原先生の活動を追った『最期の笑顔～納棺師が描いた東日本大震災～』という番組を鑑賞したうえで先生にご講演いただきました。番組では被災直後から現地で300人以上の方を復元したこと、身元不明の幼児の遺体との出会い、親族の許可が得られず復元できなかつたくやしい思い、母親を亡くした子どもたちと父親の生活などが語られました。私たちがニュースでは知り得なかつた現状に戸惑いや驚きもありました。涙を流す生徒もいました。

笹原先生は講演で不思議なほどに明るい口調でお話をされました。死を怖いもの、悲しいものとしてとらえるのではなく「亡くなった人と一緒に過ごしたたくさんの思い出を大切にしたいから悲しむ。また、その人がどのように生きてきたかを知り、大切にすることで生きる意味を知り、今を生きることができると思う」というメッセージが込められていました。

講演後の生徒の感想は、枠内に収まらないほど書き込まれたものがありました。一人ひとりの感じ方は様々ですが、笹原先生の言葉から生徒が何かを感じ、とても真剣に考え表現してくれたことを嬉しく思いました。



笹原先生による講演会

## オープンスクール

9月22、23日の両日、オープンスクールを開催しました。昨年同様、できるだけ多くの中学生や保護者の方々に本高校を理解していただくために2日間に分けて実施しました。のべ1,800人以上が参加し、昨年に続き好評をいただきました。

毎年、生徒・教職員が一丸となって、参加者にたくさんの感動と笑顔を感じ取っていただいています。今年度は新しい取り組みとして「在校生による手作り学校説明会」を実施しました。様々な個性をもった在校生から伝わってくるパフォーマンスに惜しめない拍手が送られ、本高校生徒への憧れを感じていただきました。その他体験授業や学食体験、吹奏楽部の演奏など、これから受験を迎える中学生のみなさんに充実した半日を過ごしていただいたと思っております。

魅力ある学校は生徒・教職員が一緒になって作り上げるものです。来年度、中学生のみなさんが本高校に入学し、私たちと共に楽しい高校生活を築いてくれることを期待しています。



在校生が参加者に母校を紹介

## 修学旅行

10月11～15日、4泊5日の日程で修学旅行を実施しました。「自己を理解する」「集団行動を学ぶ」「国際的視野を広める」「人権や平和について学ぶ」という4つの目的のもと、2学年総勢508名の生徒が北海道、沖縄、韓国、台湾の4コースに分かれて様々なことを学びました。

北海道・沖縄の国内組は大自然の中での体験学習、韓国・台湾の海外組は現地の学生・生徒との交流事業が組み込まれ、ともに普段の学校生活では味わえない貴重な経験となりました。



北海道

## 台湾 ～真理大学との交流を通じて～

台湾コースは男子生徒10名、女子生徒9名、引率教員2名という家族旅行のような和やかな雰囲気スタートしました。

旅行3日目、台湾のベニスと呼ばれる美しい街「淡水」へと向かいました。淡水を代表する史跡の紅毛城。その前の急な坂道を登った先の真理大学構内に、小さなレンガ造りの建物があります。これが「牛津学堂」で、カナダ出身の宣教師であり、教育者でもあったジョージ・レスリー・マッケイ博士が1880年に設立した台湾初の西洋教育の学校です。その真理大学で日本語学科を専攻する男女4名の学生と、午前9時から夕食までの間、自由に交流する時間をもつことができました。



沖縄



韓国



台湾

本校生徒4～5名ごとに1名の流暢な日本語を話す学生がついて案内してくれるということで、生徒達は台湾で行ってみたい所、食べてみたい物、買いたい物等を事前に調べ、4つのグループに分かれ淡水の街を散策しました。観光地ではない地元の若者が集う場所に連れて行ってもらい、昼食は現地学生おすすめのお店に行くなど本当に楽しんだ様子でした。また、MRT(都市鉄道)にも乗り、広い範囲を巡ったグループもありました。

学生には台北市内の夕食会場まで同行してもらい、記念写真を撮ったり、アドレスを交換したり全員が別れを惜しんでいました。今回の交流は、現地学生に助けをもらいながら自分達で考え積極的に行動し、十分に異文化に触れることができた交流会だったと思います。

真理大学の学長は、今後もこうした交流を続け、広島国際学院大学との姉妹校提携も希望されていました。私たちも言語の壁を乗り越えることで大きな友情の輪が広がることを実感しました。

# 第45回高城祭『ゴールドラッシュ!!!』を終えて

高城祭実行委員会 委員長 中下 貴博

(総合工学科4年 広島国際学院高校出身)

10月27・28日に本大学中野キャンパスのグラウンド野外特設ステージを中心として高城祭が行われました。

1日目の当夜祭は雨に祟られた前回、前々回に比べて天気も良く、幸先の良いスタートとなりました。一般参加企画のアームレスリング大会では剛腕の持ち主から目立ちたがり屋さんまで様々な方が参加し、会場は笑いに包まれました。○×クイズも最良の天候で行え、グラウンドの足場も良かったこともあり、去年以上のお客さんが参加してくれました。

そしてお楽しみのライブ。現役MPAやMPAのOBによるライブ

に続き、いよいよ「電大」の登場です。「ユニコーン」のメンバー中、本大学(旧広島電機大学)OBである川西幸一さん、手島いさむさん、EBIさんの3人が新たにバンド「電大」を結成、母校で待望のライブを披露しました。パワフルな演奏に客席も大盛り上がりで楽しんでいました。



待望の母校ライブが実現、熱演する「電大」

当夜祭の恒例となるビンゴ大会では、小雨が降っていたにもかかわらずお客さんが残ってくれ、折りたたみ自転車など豪華景品を抱え、喜んで帰宅されていました。

2日目の終夜祭を雨の心配もなく行えたことは、近年の高城祭では久々の快挙ではないでしょうか。今年は企画の初めに仮面ライダー電王ショーもあり、大好きな仮面ライダーに会うため朝から大

学祭に来てくれているお子さん方が印象的でした。また今回のカラオケ大会はハイレベルな競演となりました。参加者の歌唱力が抜群で、聞き入っているお客さんが多かったように思います。そしてゲストライブには「7!! (セブンアップス)」が来学。彼らにとっての大学祭ツアー初ライブがこの高城祭とあって、7!!とお客さんの



祭のフィナーレを飾った大輪の花火

双方が全力で盛り上げていき、最後まで興奮冷めやらぬステージになりました。最後に、皆さんお待ちかねの高城祭名物である花火が夜空に打ち上げられ、祭を華やかに締めくくりました。毎年楽しみにしている大学近辺の企業さん、来場しているお客さんや学生から「今年の花火凄かった」と口々に言っていたら、凄く嬉しかったです。卒業する僕にとって最後の高城祭ということもあり、花火師さんからのプレゼントであったと勝手に思っております。

高城祭を温かく見守ってくださる地域の方と、大学教員、学生、高城祭でお世話になってきた業者の方に感謝しながら、今後も高城祭が続くことを願っています。

4年間ありがとう！



腕自慢が競ったアームレスリング大会



人気メニューを取りそろえ賑わったバザー

# 高校野球部・今井君、プロ野球DeNA入団

野球部監督 長 延 公 平

本高校硬式野球部で主将も務めた今井金太君(3年 国泰寺中学校出身)の横浜DeNAベイスターズ入団が決まりました。



豪快な投球フォームを見せる今井君

今井君は投手として1年生夏よりベンチ入りし、1年次広島県秋季大会準優勝、中国大会ベスト8に貢献してくれました。高校生離れた身体能力を生かし、また強気の性格で打者に向かっていく姿勢は、他の者を引きつける強さを感じさせます。

早くからプロ入りを希望していた今井君は、10月25日のドラフト会議を少し緊張気味で迎え、結果を待ちました。「横浜DeNAベイスターズ 育成1位」指名の吉報に喜びを噛みしめた今井君は「野球ができる舞台に立つことができ、出会った方々に感謝します。やるしかない」と話していました。この思いを胸にがんばってくれることを期待します。

高校生から社会人として成長し、最高峰のプロ野球選手として、勉強しなければならないことばかりですが、皆様に愛される選手になってくれることを信じ、応援していきたいと思います。



今井金太君

## ダイハツ技術大会で堂々の全国3位

— 短大OB原井さん、努力の成果に喜び —



頑張った成果を喜ぶ原井さん

ダイハツ広島販売(株)祇園新道店に勤務する原井健さん(2009年卒)が、昨年10月12日に「第38回ダイハツサービス技術コンクール全国大会」で第3位の栄誉に輝きました。原井さんは「1ヶ月半懸命に勉強した結果が3位だったので嬉しい」と喜んでいました。

ダイハツ技術大会には全国から14チームが参加。故障診断(A)とメンテナンス競技・接客(B)で1つのチームを組み、技能を競います。原井さんはメンテナンス競技・接客(B)に出場しました。学科競技のほか、メンテナンス競技では普段行う作業を修理書どおり早く正確に行えるか、また接客競技では、点検後の説明を態度よく的確に行い、顧客からの質問にも答えられるか審査されます。接客競技が特に難しかったと言います。

会社では主に車検整備と点検作業を担当。入社後1年で2010年に整備主任者に選任されました。お客様に迷惑をかけないように正確な作業を心がけるとともに、要望に応じてお客様に

喜ばれることにやりがいを感じると原井さんは語りました。

短大の授業の中でも、電気ゼミはラジコンカーづくりなど、面白くて印象に残っていると話す原井さん。在学中学んだ基本的な作業は仕事に役立っていると言います。原井さんは「重要学科はメーカー検定試験で役立ちます。しっかり勉強すれば後々楽になります」と後輩にアドバイスしました。

## 大学同窓会総会

11月17日、広島ガーデンパレスで広島国際学院大学同窓会の平成24年度総会を開催しました。



楽しい踊りの輪に同窓生も加わった

今総会では同窓会長が改選となり、新会長に1期生の佐藤泉さんが選出されました。続いて平成23年度事業報告と決算報告および監査報告を行い、同24年度事業計画案や予算案とともに会員の承認を得ました。

続く懇親会では、安芸高田市の「ひょっとこ踊り」グループがアトラクションに出演。ユーモラスに踊りながらテーブルの間を練り歩き、参加者の飛び入りもあって会場は笑いに包まれました。また、現会長の田植憲司さんがご自身で丹精したお米をゲームの賞品に出され、勝ち抜いた6人が大喜びで持ち帰っていました。1期生から現役生まで楽しく旧交を温め、再会を約してお開きとなりました。

# ロンドン五輪でコーチ、さらなる高みへ狙い定め

— エディオンアーチェリー部監督・松木裕二さん —



ロンドンオリンピックでコーチを務める松木さん(左)。銀メダルを獲得した古川高晴選手と

本大学の第20期生で現在はエディオンアーチェリー部監督として活躍する松木裕二さんが、2012年夏季オリンピックロンドン大会にアーチェリー日本代表男子コーチとして出場しました。松木さんは「世界選手権やワールドカップを体験しましたが、やはりオリンピックには全く違う緊迫感があります。夢を現実にする場所だと強く感じました。女子団体が銅メダル、男子個人は古川高晴選手が銀メダルを獲得したその場で共に戦えたことはたいへん勉強になりました」と大会を振り返りました。

競技中はコーチングボックスで「1射1射集中して、攻めていけ！」と思いながら選手を見ていたと松木さん。「準決勝で勝った時、これで金・銀どちらかのメダル獲得だ！」と思いましたが、ここで集中を切らさず、次の決勝でも！と願いながら決勝戦に臨みました。決勝で敗れたのはとても悔しいがここまでよくやったと思います。選手には「銀メダルおめでとう！」と声をかけました」と語りました。

ロンドンでは選手村を朝出て試合会場に向い、夕方帰るといった生活がほとんどでしたが、選手村では選手と同室で楽しく過ごし、食堂で他競技のコーチなどと話したりしたそうです。各競技の有名選手を見ることも度々あったとか。

松木さんとアーチェリーの出会いは大学入学後。大学3・4年生の時の中国四国地区学生王座決定戦での団体優勝、4年生の折の全日本学生アーチェリー選手権大会での優勝、社会人では全日本実業団大会での団体優勝が特に印象に残っているそうです。また指導者に進んでからは、エディオンアーチェリー部で菊地栄樹選手がオリンピック出場枠を獲得した世界アーチェリー選手権大会が特に思い出深いといいます。今後はエディオンアーチェリー部の選手がオリンピックでメダルを獲得するのが目標と意気込みを語りました。

本大学では松木さんの後輩たちが数々の競技に挑戦し、今年度も「全日本ターゲットアーチェリー選手権大会」で4位に入賞するなど好成績をおさめています。松木さんは「『夢を現実に！』目標に向かって、毎日努力して一歩ずつ進んでください！実現します！」と力強く後輩にエールを送りました。

# アーチェリーで全国4位に入賞

— 石田明日香さん —

10月26日に開催された第54回全日本ターゲットアーチェリー選手権大会リカーブ部門(女子)において、石田明日香さん(3年 広陵高校出身)が4位に入賞しました。

石田さんはこの大会に2度目の出場。またその前に国体で好成績を出していたこともあって、試合前はあまり緊張していなかったと言います。試合中は強風のためやりにくかったそうですが、粘りで予選通過。トーナメントでは1回戦、2回戦と勝ち進んだものの準々決勝で敗れ、3位決定戦に進出しました。3位決定戦ではオリンピックにも出場した早川連選手と対戦、堂々の4位で今大会を締めくくりました。

「五輪選手との対戦はすごく緊張しましたが、よい経験になりました。国体に続き全国大会でも4位という結果が残せてよかったです」と石田さん。「大学生としては来年が最後の出場。練習を重ね今度こそ五輪選手に勝てるよう頑張りたい」と次なる目標に早くも意欲を燃やしていました。



賞状を手にする石田さん

## ★ 今後の主な行事予定

(赤字は公開行事です)

大学・短大 推薦入試(短1/19) 一般入試(大 前期2/1~2 後期3/7 短 前期2/1~2 後期3/14)  
学内合同企業セミナー(大 2/14~15) 卒業論文発表会(現 2/16 : 袋町キャンパス)  
卒業研究・卒業制作選抜展(情デ 2/22~24 : アステールプラザ市民ギャラリー)  
卒業証書授与式(3/19) 入学宣誓式(4/5)  
高 校 献血(1/24) 推薦入試(2/4) マラソン大会(2/9) 一般入試(2/13~14)  
卒業式(3/1) 入学式(4/9)

この広報誌及び第三者認証評価結果はホームページでご覧になれます。 <http://office.hkg.ac.jp/>

高校生以上の方に図書館を開放しています。 詳細は図書館までお問い合わせ下さい。TEL082-820-2536